

平成 28 年 12 月からの西之島の地形変化について

平成 30 年 1 月 17 日時点の数値標高モデル (DEM) と、平成 28 年 12 月 20 日時点の DEM を使用して「西之島地形変化図」を作成した。

地形変化図から判明したことは以下のとおりである。

1. 平成 28 年 12 月以降に噴出した溶岩流

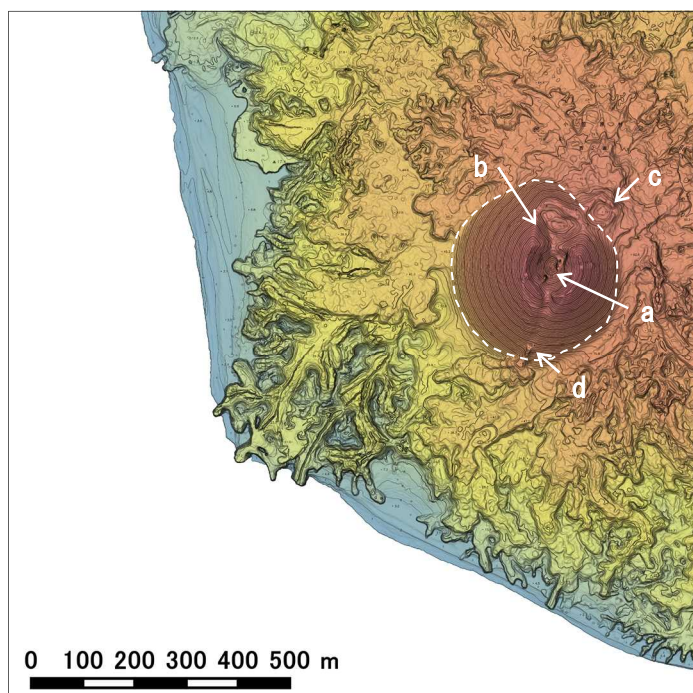
火口から噴出した溶岩流は、西方及び南西方向に大量に流出し海域まで到達している。また、流出した溶岩により新たな陸地が形成された。

2. 火口と火砕丘

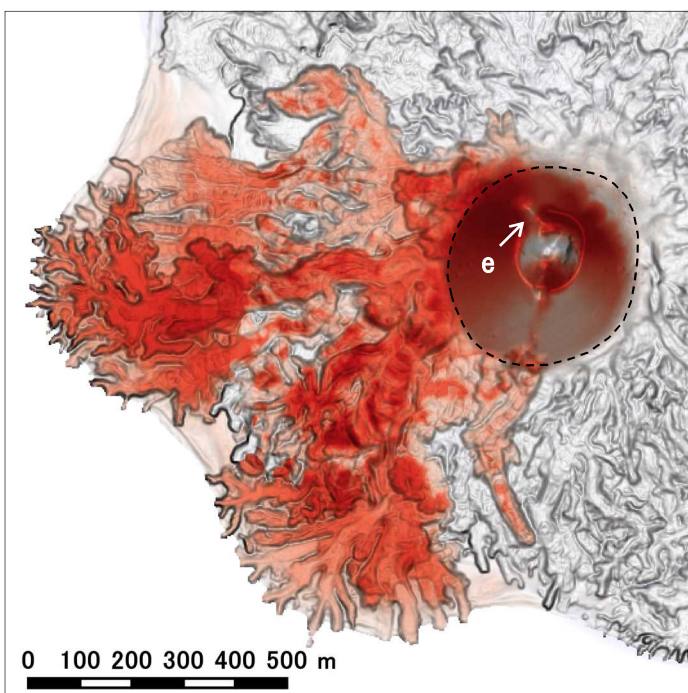
平成 28 年 12 月 20 日時点では、島の中央にある火砕丘 (破線) の山頂に 3 箇所 (a, b, c) が確認できたが、平成 30 年 1 月 17 日時点では、北側 (b)、北東側 (c) にあった火口が噴火活動により埋没し、より大きな火口が中央 (a) に形成された。また、火砕丘北側に溶岩が流出した割れ目状の火口が見られる (e)。

南方中腹にあった小さな火口 (d) は平成 30 年 1 月 17 日時点でも存在し、溶岩を噴出した様子がわかる。

火砕丘自体 (破線) も火砕物の噴出により全体的に拡大した (面積約 30% 増加)。



平成 28 年 12 月 20 日時点



平成 30 年 1 月 17 日時点